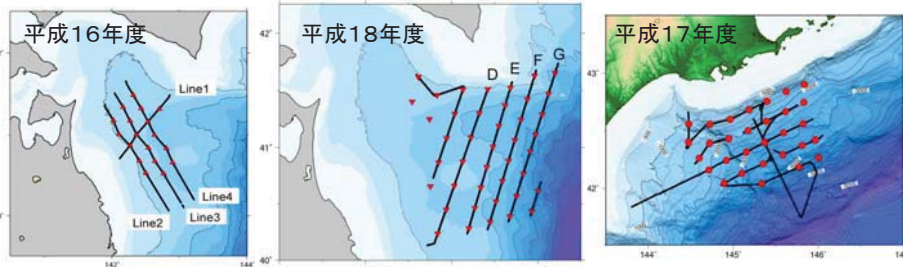


文部科学省委託研究「東南海・南海地震等海溝型地震に関する調査研究」  
(平成16年度～平成20年度)



平成16年度  
平成17年3月～10月  
長期観測型18台

平成18年度  
平成18年10月～平成19年6月  
長期観測型42台

平成17年度  
平成17年12月～平成18年10月  
長期観測型30台

目的

- 海域における詳細な地震活動の把握
- 地震発生場のプレート形状の推定

1. 長期観測型海底地震計による自然地震観測
2. エアガン探査による海底下構造調査

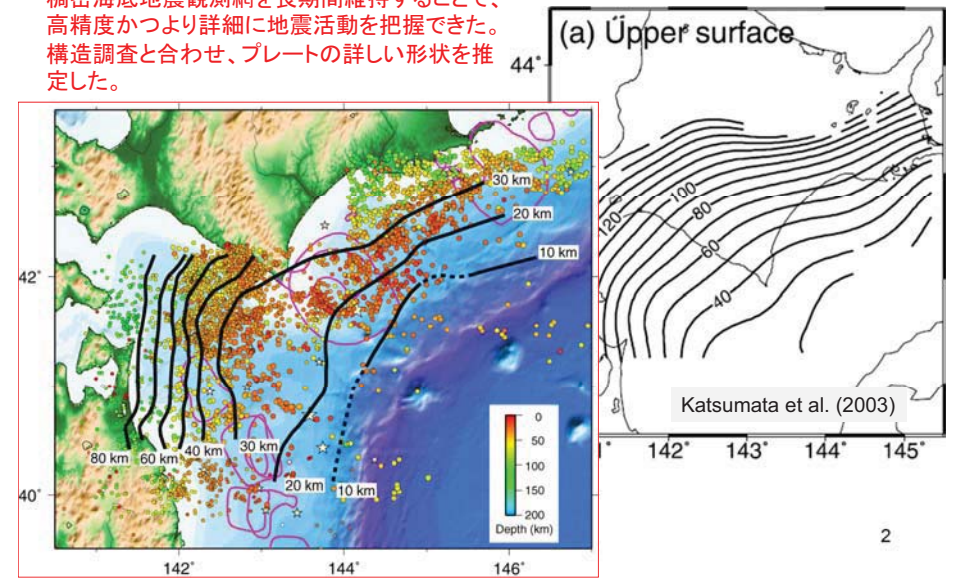
2012年2月17日

第194回地震予知連絡会

1

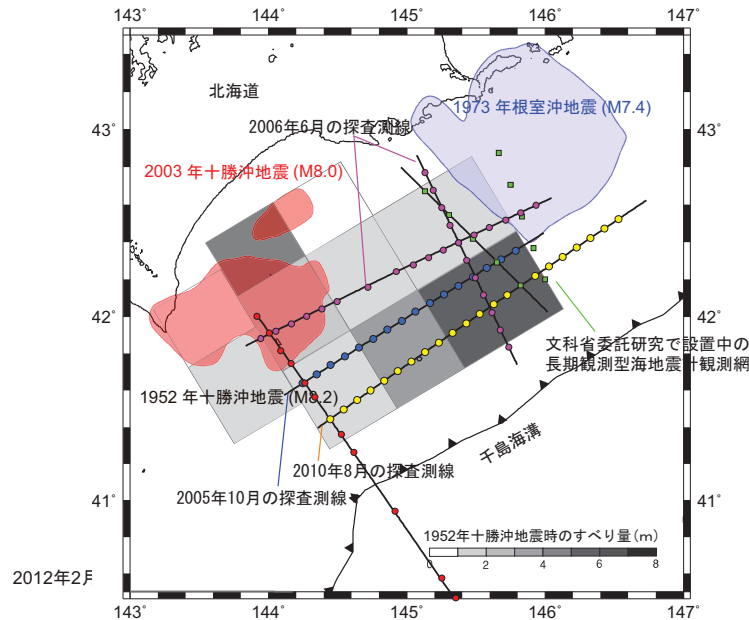
東南海・南海地震等海溝型地震に関する調査研究  
海底地震活動観測のまとめ(平成16-18年度)

稠密海底地震観測網を長期間維持することで、高精度かつより詳細に地震活動を把握できた。構造調査と合わせ、プレートの詳しい形状を推定した。



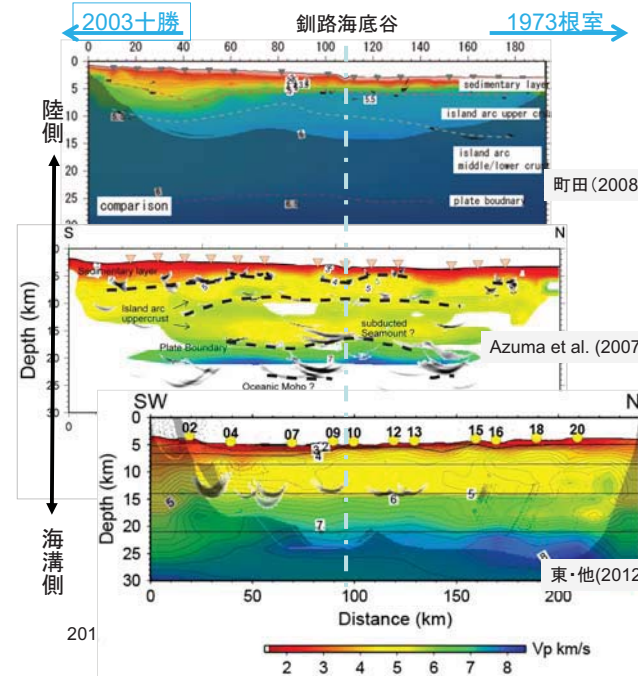
2

十勝沖～根室沖の主な探査側線(北大用船中心、2004年以降)



2012年2月

3



海底谷周辺(1952年十勝沖地震の東部パッチに相当)のプレート境界面  
→強い反射性

1973年・2003年震源域内では反射波検知できず

海底谷周辺のすべり特性が、通常のM8級すべり域と異なる  
↓  
1952年十勝沖は津波地震的性格も持っていた?

4